

## 令和2年度秦野市教科用図書採択検討委員会 調査研究報告書

秦野市教科用図書採択検討委員会

委員長 野田 学

本検討委員会では、来年度使用する秦野市立中学校の教科用図書について、5月の教育委員会会議において議決された「令和3年度に秦野市立中学校で使用する教科用図書の採択方針」に基づき、秦野市・平塚市・伊勢原市・中地区合同で設置された調査員会の調査研究の結果等をもとに審議を行いました。その結果を報告いたします。

令和3年度に中学校で使用する教科用図書についての各者別審議内容

【国語】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの各教材の学習のポイントが「言葉の力」として明示され、3年間で系統的に積み上がるよう具体的な言語活動が設定されている。</li> <li>・「学びを支える言葉の力」では、情報の扱い方や表現の仕方、コミュニケーションの基礎等を身に付けられるよう言語活動が設定されている。</li> <li>・各教材の始めに「問いかけ」が提示され、「言葉の力」へとつなげられている。「学びの扉」で付けたい力が示され、学習の流れを定着させ、学習意欲を高めるよう構成されている。</li> <li>・各教材の「広がる言葉」で文章中の語彙がまとめられている。その活用として様々な語彙に触れて語感を磨くために、巻末に「言葉を広げよう」が設定されており、文章を読んだり書いたりする際生かすことができるようになっている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材の始めに「目標」として付けたい力が具体的な言葉で示されている。また、「学びの道しるべ」では学習の流れが示され、振り返りが出来るよう構成されている。</li> <li>・巻末に3年間で学習する22種類の読み方の方略を一覧で示し繰り返し活用できるよう表現活動の例がまとめられている。</li> <li>・「語彙の広がり」では、語彙を豊かにするために、思考や表現の助けとなる言葉が種別に並べられ、学年ごとに系統的にまとめられている。</li> <li>・学習用語辞典では国語の学習に役立つ用語がまとめられており、特に関連の深い教材と学年の該当ページが記されている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsと深く関連した「学びを進めるキーワード」を7つにまとめ、3年間で単元に位置づけている。</li> <li>・「理解に役立つ言葉」では、生活に生きて働く言葉が学年ごとにまとめられ、「表現に役立つ言葉」では意見を述べる活動や議論や討論するなどの表現活動に活用できる言葉が学年ごとの教材と関連付けてまとめられている。</li> <li>・各教材の初めに「学びナビ」が設定されており、内容をより深く読んだり学習内容を認識したりするための手立てを示し、学習の手引きの道しるべにおいて学習の流れが段階的に設置されている。</li> <li>・「学習に必要な用語(索引)」では、学習の振り返りができるように、3年間で学ぶ大切な言葉がまとめられている。</li> </ul>
光村図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材に続き「学習(手引き)」が設けられ、見通しを持つ、学習課題、振り返るといった学習過程が明示されている。</li> <li>・学習のまどでは学習のポイントが図解され、日常生活や他教科の学習でも生かせるようにまとめられている。</li> <li>・情報整理のレッスン、思考のレッスンでは、情報の扱い方に関する事項について具体的なテーマを設定し論理的思考の形成や表現に生かすための言語活動が例示されている。</li> <li>・「語彙を豊かに」では、思考や表現の助けとなる語句の意味を示したり、語の広がりを表したりする言葉が学年ごとに系統的にまとめられている。</li> </ul>
<p>主な審議内容及び検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京書籍の「本の世界を楽しもう」でリードが載っている点が特色だと感じる。</li> <li>・論理的な言葉を培うという点でどの教科書も工夫されているが、東京書籍は3年間の段階を示しており、うまくまとまっている。</li> <li>・三省堂は小説などの教材の後に相関図が示されており、生徒にとっては見やすいつくりとなっている。</li> <li>・三省堂は色分けされており、見た目でもわかりやすい。最後の方にも説明文の構造等が分かりやすく整理されている印象を受けた。</li> <li>・グループディスカッションなどが求められていることから、そういった観点からも分かりやすい教科書がよい。</li> </ul>	

【書写】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決型単元展開がはっきりとした形で書面が構成されている。</li> <li>・「書写のかぎ」を各単元に設けており、各単元共通の書き方を示すことで学習者が何を見ればよいのか見やすくなっている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に書き込むことができるスペースが多く準備されており、生徒が活動的に取り組むことができる紙面構成となっている。</li> <li>・教科書に掲載されている字だけでなく、他の字にも応用できるような書面の構成となっている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の教科書と関連した教材が多く用意されており、生徒が国語を学びながら身近なものとして練習に取り組みやすい内容となっている。</li> <li>・課題解決型が強く意識された教科書となっており、「試し書き」という実際に字を書いて課題を見つけることができる欄が設けられている。</li> </ul>
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写ブックが教科書とは独立して用意されており、家庭学習に生かせる形となっている。</li> <li>・見本が多く掲載されており、生徒が自身の得意な字や苦手な字を選んで練習することができる紙面構成となっている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教科書も生徒が自分の字を書き、課題を見つけて学習に取り組み、最後に自分の字を修正できたかをふりかえる、という学習の流れとなっている。</li> <li>・国語との関連が気になった。報告書を見ると、どの教科書も国語との関連を意識してつくられている印象がある。</li> <li>・三省堂と光村図書は版型が小さいサイズとなっている。</li> <li>・教育出版の索引は字が小さく、生徒によっては負担が大きい。三省堂は版が大きい割には文字が小さいように感じる。</li> <li>・分冊になっていると、生徒が教科書を自宅に置いたままとなってしまう、授業で使えないこともある。</li> </ul>	

【社会(地理的分野)】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の導入部で単元を貫く「探究課題」が示され、1単位時間には「学習課題」、単元の終結部には「探究のステップ」「探究課題の解決しよう」が設けられている。</li> <li>知識や技能を確認するための「チェック」「トライ」がページ右下の欄外に掲載されており、生徒自身がすぐに確認することができるような紙面構成となっている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真やグラフが大きく掲載されている。</li> <li>巻頭の「地理にアプローチ」では、小学校社会科で学習した内容が、また中学校社会科で学習する地理の学習に不可欠な地図やグラフの使い方が、まとめて解説されている。</li> </ul>
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> <li>見開き1ページに掲載されている写真やグラフの数が多いため、教師のねらいや生徒の実態に応じて資料を選びやすくなっている。</li> <li>各章(節)の冒頭にある「章(節)の問い」の答えへの論理的な説明や、多面的・多角的な考察に取り組めるよう、「章(説)の学習を振り返ろう」のページが設定されている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭見開き「地理との出会い」では、イラストと問いにより地理学習の手立てが身に付けられるよう、地理的な見方・考え方が例示されている。</li> <li>1単位時間で学習するページごとに学習内容と「地理的な見方・考え方」の関連が示されているため、生徒が「見方・考え方」を意識しながら授業を受けることができる紙面構成となっている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>二次元コードは、どの教科書にも設けられている。</li> <li>ワークシートは、生徒が復習用に使うことが多いと思う。</li> <li>授業で扱った方がよいグラフや写真は、すべての教科書に掲載されている。</li> <li>帝国書院のようにグラフや写真が多く掲載されていると、教員が意図的に資料をピックアップして授業に活用することができ、生徒の興味・関心を高めた指導ができる。</li> <li>日本文教出版には、内容を捉えやすい「考えるカギ」が記載されている。</li> <li>統計資料については各者新しいものが採用されており、大きな差異はない。</li> <li>地図帳との関連で、帝国書院だけは巻末に国や県の統計的な資料がないので、地図帳等とセットで学習していく必要があると感じる。</li> </ul>	

【社会(歴史的分野)】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章、節、学習内容ごとで区切られ、「探究活動」、「探究のステップ」、「学習課題」というそれぞれの問いが設定されている。</li> <li>・第1章に歴史的な見方・考え方として、「時期や年代」、「推移」、「比較」、「相互の関連」、「現在とのつながり」の5項目が提示されている。</li> <li>・単元全体を貫く「探求課題」の設定及び解決、「まとめの活動」等の学習活動を通して課題を追求することができるよう構成されている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習した内容がすぐろくで掲載され、振り返りながら中学校の内容を学習できるように工夫されている。</li> <li>・第1章に歴史的な見方・考え方として、「5W1H」、「原因や背景」、「結果や影響」、「時代の特色」、「時代の転換」の5つのポイントが提示されている。</li> <li>・社会的な見方・考え方の実践として、「読み解こう」「読み取ろう」「活用しよう」が設定されている。</li> </ul>
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章に歴史的な見方・考え方として、「推移」、「時期や年代」、「相互の関連」、「比較」の4項目が提示されている。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを実現するために、「多面的・多角的に考えてみよう」及び「多面的・多角的に構想する 未来に向けて」が設けられている。</li> <li>・深い学びができるように、「節の問い」と、それらを貫く「章の問い」が設定されている。</li> </ul>
山川出版社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んでいることが一目で分かるよう、各テーマが日本史と世界史で色分けされている。</li> <li>・各学習内容において、導入の発問、本文、ステップアップによる振り返りという学習の流れが設定されている。</li> <li>・「歴史へのアプローチ」、「地域からのアプローチ」、「歴史を考えよう」では、美術作品、史跡、現代とのつながり等の観点から歴史を捉えることができるように設定されている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1編で歴史の見方・考え方として、「時系列」、「推移」、「比較」、「つながり」の4つの視点が、具体例とともに提示されている。</li> <li>・単元ごとに学習課題や「見方・考え方」が設定されており、「深めよう」で学習課題の理解を深めることができるよう構成されている。</li> <li>・学習課題を追究、解決する手助けとなるよう「チャレンジ歴史」、「アクティビティ」が提示されている。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を多角的な視点で詳しく解説した「歴史ビュー」や、歴史学習の幅を広げる「歴史ズームイン」が設定されている。</li> <li>・各章に同時代の日本と世界の動きをとらえ、世界の歴史を背景に日本の歴史を見る「このころ世界は」が設けられている。</li> <li>・各時代を代表する出来事について、様々な資料をもとに意見を交換し議論する「歴史のターニングポイント」が設定されている。</li> </ul>
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・判型はA4判であり、巻頭に主な史跡が示された世界地図が掲載され、巻末には日本の「歴史地図」が掲載されている。</li> <li>・歴史のできごとの相互の関連をつかんで思考を深めるために、章の冒頭に「章の扉」が設定されている。</li> <li>・特設ページの「歴史を体験する」では、物事を、深く追究する内容が掲載されている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教科書で思考を深める質問や話し合っって答えを導くような質問が多く設定されている。</li> <li>・どの教科書も、生徒自ら考え、話し合いながら問題を解決していく構成になっている。</li> <li>・山川出版は日本史を学習するときはオレンジ、世界史を学習するときは青で示されており、視覚的に分かりやすく構成されている。</li> <li>・日本史と世界史を関連させて捉えられるよう、山川出版では世界を通観するイラスト、日本文教出版では世界を体感できるような表示、育鵬社では「このころ世界は」というページが設けられている。</li> <li>・東京書籍には、現代とのつながりという視点が巻頭に示されている。</li> <li>・帝国書院は、章ごとに二次元コードが設けられている。</li> <li>・東京書籍、帝国書院、学び舎は導入部の写真が大きく、生徒がイメージを持って学習するうえでは重要だと思われる。</li> <li>・帝国書院、日本文教出版、教育出版には、ページに年表が掲載されており、世界の学習に際して日本での出来事が捉えやすくなっている。</li> <li>・教科書の導入部を比べた時、東京書籍と教育出版が色合いが優しく、勉強したくなるような印象がある。</li> <li>・昔と比べて写真なども豊富で、資料集がなくても学習が進められるような紙面構成になっている。</li> <li>・東京書籍はページの下に、どの時代を学習しているのかが分かるように示されているとともに、課題が提示されているので、興味を持ちながら学習できるようになっている。</li> <li>・学び舎は近現代に力が入っているように感じられ、生徒の生活に近いところから学習できるつくりになっているように感じられる。</li> </ul>	

【社会(公民的分野)】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>•かながわ教育ビジョン5章で取り上げられているSDGsについて、見開きで構成されている。</li> <li>•ユニバーサルデザインフォントが使用されている。</li> <li>•各単元の学習を単元全体を貫く問いである「探究課題」と節ごとの課題である「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構成されている。</li> <li>•学習課題に対して振り返ったり発展的に取り組んだりするための「チェック&amp;トライ」が設けられている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>•かながわ教育ビジョン5章で取り上げられているSDGsについて、見開きで構成されており、また、関連するSDGsの項目が各ページに適宜示されている。</li> <li>•カラーのユニバーサルデザインフォントを使用している。</li> <li>•各章の「学習のはじめに」では、学習の見通しをもてるように、学習内容と章全体の学習課題及び、その章の学習において着目すべき、見方・考え方が掲載されている。</li> <li>•各章末に設けられた「学習のまとめと表現」のページでは、各章で学んだ内容を振り返って整理したり、学習したことを活用して考察し、構想・表現したりする言語活動が取り入れられている。</li> </ul>
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> <li>•SDGsについて見開きで説明されている。</li> <li>•ユニバーサルデザインフォントが使用されている。</li> <li>•「学習の前に」では、大きなイラストから学習内容に関連した事項を探し出す活動を通じて、主体的な学びを促すように配慮されている。</li> <li>•単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」というように、生徒の学習過程が構造化され、単元を通して課題解決的な学習ができるようになっている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>•SDGsについて、巻頭に見開きで掲載されている他、第4章の国際社会で2ページ、5編ではレポート作成の学習活動が設定されている。</li> <li>•カラーのユニバーサルデザインフォントを使用している他、点字を活用するページも設定されている。</li> <li>•各編の導入には、編の学習内容を見通して、意欲をもって学習に取り組むことができるように「学習の始めに」が設けられている。</li> <li>•見開きのページでは、学習課題、深めよう、見方考え方、最後に確認という構成になっており、言語活動につなげる活動になっている。</li> </ul>
自由社	<ul style="list-style-type: none"> <li>•SDGsについては、見開きでの説明となっている。</li> <li>•ユニバーサルデザインについては、重要な語句についてはゴシック体を使い見やすくしている。</li> <li>•各章の導入でその章で学ばせたいことを設定し課題を追及していく紙面構成となっている。</li> <li>•見開きの課題ではやってみよう・ここがポイントという活動を設定し、言語活動につなげる活動となっている。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>•かながわ教育ビジョン5章で取り上げられているSDGsについて、巻頭・巻末等に見開きで掲載されている他、見開きで4ページの説明が掲載されている。</li> <li>•ユニバーサルデザインフォントについては、色覚の特性に対応しており、ゴシック体でフリガナがふられている。</li> <li>•各章の学習を多面的・多角的に捉えやすくするため、各章の導入に、章全体の学習内容の趣旨を捉えさせる見開き「入り口」が設けられている。</li> <li>•見通しをもって学習を進めることができるよう見開きで何を学ぶのか「学習課題」が明確に示され、各時間の終わりに言語活動に取り組めるよう「鉛筆マーク」が設けられている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•公民については、地理・歴史の教科書とつくりが違ったとしても問題はない。</li> <li>•教育出版は裁判員裁判など最新のことが掲載されている。すべての教科書会社において、必ずしも最新の情報や資料が扱われているわけではないので、資料集などを使って調整していく。</li> <li>•どの教科書も自分の生活につながるような内容やグループ活動等が設定されている。</li> <li>•現在は東京書籍の教科書を使っており、学習の流れが同じであると使いやすい部分はあるが、他の教科書もよく研究されている。教育出版、帝国書院は、世の中のことを捉えて教科書をつくらせている印象を受ける。</li> <li>•二次元コードの内容については、資料としては少し物足りなさを感じる。</li> <li>•生徒が学習内容をより身近なものとして感じ、興味を持つきっかけとなる工夫がなされた教科書がよいと思う。</li> </ul>	

【地図】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AB判が採用されており、巻頭で国連のSDGsに代表される現代の諸課題が、写真やグラフをもとにまとめて紹介されている。</li> <li>・日本の伝統や世界遺産等について理解が深められるように、写真や資料が随所に掲載されており、資料集的な紙面構成となっている。</li> <li>・「歴史の舞台・九州地方」「ピックアップTOKYO」等の地図や資料を設け、「歴史・公民」マークが付されていることで、歴史的分野、公民的分野とも連携して使うことができるつくりとなっている。</li> </ul>
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4判が採用されており、1ページ当たりの情報量が多く、地図も大きく掲載されているため生徒にとって見やすいつくりとなっている。</li> <li>・主体的に地図技能を身に付けるために、具体的な活動や学習課題を示した「地図活用」が随所に設けられている。</li> <li>・イラスト資料とともに鳥観図が掲載されており、生徒が関心をもって取り組むことができる紙面構成となっている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国書院の地図帳には複数の作業箇所が示されているため、限られた時間の中で生徒の技能的な力を身につけさせる上では、教員・生徒の双方にとって使い勝手がよい。</li> <li>・東京書籍は公民的分野との関連などが示されており、活用の幅があるように感じる。</li> </ul>	

【数学】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学ぶ意欲を高め、学習の前後で自己の成長が感じられるよう、単元の中で生じた疑問が、次の学びへとつながるストーリー性のある構成がされている。</li> <li>身近な場面を節の中で設定し、その問題を解決するための方法を考えたり、データ処理したりする活動が取り入れられている。</li> </ul>
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>インデックスや本文見出しの色を変えることによって領域が区別されている。</li> <li>学習の進度や習熟度に応じて利用できるように「プラスワン」、章末に「力をのばそう」、巻末に「補充問題」、「総合問題」が設けられている。</li> </ul>
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりや数学の学習の中から出てきた疑問を「Question」で提示し、解決に向けて話し合う場面が示されている。</li> <li>章の終わりでは、応用力を高めるために「深めよう」が設けられており、発展的な考えを深められるように設定されている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまづきへの対応として「戻って確認」、補充問題や関連問題の掲載ページ、学習で使いたい「数学的な考え方」がページ右端に提示されている。</li> <li>日常の事象の考察から数学的活動を始め、生徒の疑問を引き出し、学習のめあてを明確にして、数学的な課題につなげるように章の導入に「Let's Try」が設定されている。</li> </ul>
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」の2部構成となっており、「自分から学ぼう編」には、学習の記録や章に対応した入試問題が設けられている。</li> <li>図、表、式の説明に際してICTを活用できる場面では二次元コードが掲載されている。</li> </ul>
数研出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>本冊の内容を深め、学びを発展させるように、本冊の他に「探究ノート」が別冊で用意されている。</li> <li>学習の見通しが立つように、考えるヒントになる意見を中心に、先生、生徒の言葉のやりとりによって課題解決の過程が表されている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決的な学習において、自分の考えをまとめ、学び合い学習に取り組めるように、巻末に「対話シート」が用意されている。</li> <li>「考えよう」では、図や表、式等を使って問題の解き方等を自分なりに考えることで、数学的な思考力を養うような問題が設定されている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どの教科書も、小学校とのつながりという点においては意識している。また、生徒が学習する内容と既習内容とのつながりを意識したつくりとなっている。</li> <li>中学校から高校へのつながりについては、どの教科書もコラム的に取り扱った内容がある。</li> <li>レベルの高い問題を掲載する啓林館や別冊を設ける数研出版等、どの教科書も幅広く練習問題が例示されており、個への対応が充実している。</li> <li>算数から数学へとなる1年生の教科書では、正負の数から導入するものと素数から導入するものがあるが、授業の際には小学校の既習事項を生かした内容からスタートし、数学の楽しさを伝えることができるので、どちらのパターンであっても取り組みやすい。</li> <li>教育出版には教科書の帯に数学的な考え方などが全ページにわたり記載されており、日本文教出版や東京書籍もページ右端に関連する学習内容のリンク先が載っている。リンクを意識している教科書は多くあるが、教育出版のつくりは特徴的だと思う。</li> <li>学校図書や東京書籍、教育出版には切り取って使う付録があるが、生徒が楽しんで使える教材は面白いと思う。</li> <li>教育出版はページの右側に既習内容との関連性が示されているとともに、どういことを学ぼうとしているのかポイントが抑えられている。学習しながらポイントを押さえられるという点は、素晴らしいと感じた。</li> </ul> </p>	



【理科】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の教科書の構成について、「天気分野」「電気分野」の順となっている。</li> <li>・体験的に理解できるように、1年では「世界の活火山分布」、2年では「温帯低気圧3Dペーパークラフト」、3年では「星座早見をつくろう」が巻末に添付されており、モノづくりの活動が明確に位置づけられている。</li> </ul>
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の教科書の構成について、「電気分野」「天気分野」の順となっている。</li> </ul>
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の教科書の構成について、「電気分野」「天気分野」の順となっている。</li> <li>・図が大きく視覚的に訴える紙面構成となっている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の教科書の構成について、「天気分野」「電気分野」の順となっている。</li> <li>・特に1年生の教科書の文字が大きく、小学校とのつながりを意識した書面構成となっている。</li> </ul>
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を獲得したり定着させるための問題数が多い紙面構成となっている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京書籍は判型の幅が工夫されており、めくりやすいと感じた。幅が狭い分、余白が少なく無駄のない紙面構成になっている。</li> <li>・問題の難易度については、大日本図書と啓林館は4つに細分化されており、難しい問題が入っている。細分化されていない教科書については基本的な問題となっている。難しい問題が含まれているのは、大日本図書・教育出版・啓林館という印象がある。</li> <li>・小学校からのつながりについては、どの教科書も字の大きさやキャラクターの使用などの工夫がされている。他教科とのつながりについては、大きな差異はないように思える。</li> <li>・生徒が苦手としている化学・電気分野の解説については、啓林館が分かりやすいように思う。</li> <li>・大日本図書や啓林館は字が多い分、情報量も多くなっている。授業での使い勝手で考えると、実験のポイント等がぼやけてしまうことが考えられるが、説明の丁寧さや生徒の学び直し、自己学習をするときは、文字としての情報が多い教科書の方がよいと思う。</li> <li>・東京書籍は単元の終わりに「科学の本棚」を設けており、学習後に興味を広げることができるのでよいと感じた。また、表紙がきれいに仕上がっており、化学を苦手とする生徒にも配慮していると感じた。</li> <li>・二次元コードについては、動画でシミュレーションができるもの等が設けられており、充実していると感じた。生徒は動画をよく見るので、二次元コードの充実は自主学习にもつながると思う。</li> <li>・東京書籍は、ペーパークラフトが付録でついているのが印象的だった。</li> <li>・教育出版や啓林館は、開いた時の色合いに魅力を感じる。</li> <li>・小学校が啓林館を使っているので、系統性という観点で選ぶことも必要ではないか。</li> </ul>	

【音楽(一般)】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実を図る学習活動を通じて他者と協働し、主体的・対話的な活動が展開できるように「ACTIVE！すすんで学び合おう」や「音のスケッチ」が配置されている。</li> <li>・全学年、「学びのユニット」として、学びのねらい、学習する曲や活動、学びの手掛かりとなるヒント、さらに比較したり深めたりするための曲や活動が系統的に配置されている。主要教材に加え、発展的な学習が行えるように「比べてみよう」や「深めてみよう」が設定されている。</li> <li>・2・3上では「音楽著作権について」、2・3下では「コンピュータと音楽」について取り上げられ、より身近な音楽との関わり方が示されている。</li> </ul>
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識をもち、協働しながら学習することで主体的・対話的な学習活動が展開できるように、創作教材「My Melody」が配置されている。</li> <li>・全学年「学習内容」として学習指導要領に示された3つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材が系統的に配置されている。また、「深めよう！音楽」では、発展的な学習が行えるように、学習の手順やキャラクターの吹き出しによるヒントが示されている。</li> <li>・全学年「生活や社会の中の音楽」で音や音楽の果たす役割について、2・3下では「ルールを守って音楽を楽しもう！」で著作権について取り上げ、生活や社会と音楽とのつながりがまとめられている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの教科書も、表現活動や鑑賞教材、創作について、学年に応じて段階的にレベルを上げていくつくりになっているため、大きな差異は感じられない。</li> <li>・若干、教育出版の方が教材の量が少ない印象があるが、指導上の違いはない。</li> <li>・生徒が関心を持ちやすく、取り組みやすいような新しい曲については、どちらの教科書でも取り扱われている。</li> <li>・言語活動については、教育出版にはまとめて書くスペースがあり、教育芸術社には「マイメロディ」等のページが設けられている。</li> <li>・どちらの教科書も、生涯音楽を愛好していくという気持ちを育むために、どんな時でも歌えるような新しい曲が設けられているとともに、日本の伝統的な曲も取り上げられ歌い継いでほしいという思いが込められている構成となっているように感じる。</li> </ul>	

【音楽(器楽合奏)】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書後半は、合奏を中心とした曲が掲載されており、前半で習得した知識や技能を活用して学びを深められるよう配置されている。また「聴いてみよう」として、各楽器の代表曲が掲載されている。</li> <li>・「何が同じで何が違う？」では、各楽器を比較し、特徴をまとめながら、主体的・協働的な学習がうながされるよう教材が提示されている。</li> <li>・「音楽はメッセージ」では、自他の敬愛と協力を重んずる和楽器奏者による音楽を通しての学びが掲載されている。</li> </ul>
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「深めよう！音楽」「アンサンブルセミナー」、「アンサンブル」では、グループでの活動を通して、主体的・対話的な学習がうながされると共に協働しながら学習が進められるような教材が提示されている。</li> <li>・基本的な技能が習得できるよう、写真や図版、各楽器の代表曲が掲載されると共に、学びを深められるように演奏者からのメッセージ等が紹介されている。</li> <li>・和楽器への親しみがもてるように、和楽器合奏に取り組んでいる中学生の姿が紹介されている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、リズム合奏などの表現活動を行っている。どちらの教科書にも、リズム合奏の曲が2曲程度掲載されている。教育出版の教科書には、リズム創作という内容も設けられている。</li> <li>・リコーダーの指導に関する内容は、どちらの教科書も段階的な指導内容が記載されており、網羅できるつくりとなっている。</li> <li>・一般の教科書と器楽の教科書はリンクしている部分があるので、同じ教科書の方が指導がしやすい。</li> </ul>	

【美術】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどのように学ぶかが明確に説明されている。</li> <li>・表現と鑑賞の領域ごとに明確な学習目標が示されていて、題材のタイトルでも学習活動が分かる表記がされている。</li> <li>・巻末の学びの資料が充実しており、技法の説明や用具の使い方が詳しく説明されている。</li> <li>・伝統や技法の伝承に大きく重きが置かれていて、美術の理解と関心を深める工夫がされている。</li> </ul>
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の授業での活動が具体的に説明されている。</li> <li>・各題材の鑑賞と表現及び制作の過程が学習活動の流れに沿って一体的に構成されている。</li> <li>・「みんなの工夫」が設けられており、制作途中の様子や学びの深まりが実際に示されている。</li> <li>・トレーシングペーパーや越前和紙を再現した用紙が綴じこまれており、本物の風合いを感じることができる工夫がされている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの目的を考えながら活動できる工夫がされている。</li> <li>・造形的な見方を身に付けるための学びの手がかりになるヒントがちりばめられている。</li> <li>・対象図版を示した具体的な問いかけで、生徒が自ら考えるきっかけとなっており、友だちと意見交換等を通して授業の中で見方を広げたり深めたりする工夫がされている。</li> <li>・ページ上段に示されている学びの目標という学習のめあては、語尾を変えることで指導者側の評価の観点として使える表記となっている。</li> </ul>
<p>主な審議内容及び検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文教出版は発達段階を意識して、3分冊にしているように感じる。他者が採用する2分冊の場合は指導者が上手く活用して2年間を通して指導していくことになるので、指導者による裁量が大きい。1冊にまとまっている方が扱いやすい生徒もいると思う。</li> <li>・授業で使用材料については生徒が持ってきたり、美術室のもので用意できたりするので、材料費については大きな負担をかけることはない。</li> <li>・日本文教出版は、身近なところにも美術があるという視点が示されており、生徒の考えやすさにつながると感じる。</li> <li>・どの教科書も原寸大に近い作品が掲載されており、生徒が細かい部分まで見ることができるよう工夫されている。</li> <li>・美術では創作や鑑賞を通して学んだことを生活に生かしていくための視点を養うことが目標になるため、日本文教出版をはじめ各教科書とも身近なものを取り上げる等の工夫がなされている。</li> <li>・判は大きければ大きいほど見やすい。光村図書は判の大きさに違いがある。日本文教出版は3分冊になっている分、大きな図版を多く掲載できる。</li> <li>・見方を学ぶという点で、小中学校が同じ教科書であった方がよい面もあるが、中学校で新たに学ぶ美術という教科として、出版社を変えて学ぶことも必要かもしれない。</li> <li>・日本文教出版は表現と鑑賞のつながりが強く、魅力を感じる。</li> <li>・二次元コードを用いて生徒の作品を多く見ることができる光村図書のつくりは特徴だと思う。</li> </ul>	

【技術】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の学習の意識付けを図るため「技術分野のガイダンス」が、また、SDGsについて技術が果たしている重要な役割をわかりやすく考えられるよう「SDGsとTechnology」が設定されている。また「話し合ってみよう」で、他者を尊重し思いやる例示がされている。</li> <li>・各分野の構成が「見方・考え方に気付く」、「問題解決する」、「これからの技術について考える」となっている。</li> <li>・33事例の「問題解決例」が示されており、多彩な加工方法や検査・修正の方法が示されている。</li> <li>・技術の見方・考え方が一目でわかる「最適化の窓」が設けられている。また技術の最適化について漫画でまとめられている。</li> <li>・理解を深めることができるよう、各内容の冒頭において「発見！技術の最適化」や、各ページの随所に「資料」、「技術の工夫」等が設定されている。</li> </ul>
教育図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の学習の意識付けを図るため「持続可能な社会を目指そう」が、また、技術の上手な生かし方を考えられるよう「学びを深め生かそう」が設定されている。また、「技ビト」で、他者を思いやり、社会に貢献する例示がされている。</li> <li>・各分野の構成が「つくって・育てて学ぼう」、「じっくり学ぼう」、「学びを深め生かそう」となっている。</li> <li>・30事例の題材例が示されており、ユニバーサル基盤を用いた実習の様子が記載されている。</li> <li>・技術の見方・考え方を養うことができるよう、各項目ごとに、「見つける」→「学ぶ」→「ふり返る」という学習の流れが明確に記載されている。</li> <li>・理解を深めることができるよう、各ページに「スゴ技」、「技ビト」、「資料」、「知的財産」等が随所に設定されている。</li> </ul>
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型社会や持続可能な社会について考えられるようガイダンスをはじめ随所に「環境マーク」が付されている。また、人物のイラストの吹き出しで、社会との関わりの中、自己を成長させる例示がされている。</li> <li>・各分野の構成が「生活や社会との技術」、「問題解決」、「これからの技術」となっている。</li> <li>・37の実習例が示されており、アクティビティ図とユーザーインターフェースを用いて解説がされている。</li> <li>・巻頭のガイダンスで技術の見方・考え方について触れ、各章については、学習の動機づけ、基礎・基本の確実な習得、問題解決の実施、学習内容のふり返りや評価・活用を重視した構成がされている。</li> <li>・理解を深めることができるよう、各内容の冒頭において「技術の歴史」の年表が、各ページの随所に「探究」、「豆知識」等が設定されている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングについては、開隆堂は多彩な視点でアクティビティ図などを取り上げている。東京書籍や教育図書も、フローチャートを中心に同じくらい扱っており、内容も濃くなっている。</li> <li>・教育図書の別冊については、絵や図などが多く用いられて見やすいため、教科書と並行して資料として扱うことができる。家庭でも活用できるようになっている。</li> <li>・教育図書は別冊を含めると他の教科書と比べて厚くなっているが、教科書本体のページ数はほぼ同じなので内容や情報量に差はない。</li> <li>・東京書籍の「技術分野のガイダンス」を見ると、自分たちの身の回りにあるものと技術分野の学習内容が結び付けられており、生徒のつかみがよいように感じる。他の出版社もガイダンスについて様々な資料を掲載しており、指導者の進め方が大切だと感じる。</li> <li>・教育図書はプログラミングについて本格的な内容が掲載されている。</li> </ul>	

【家庭】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習例が横の流れでレイアウトされ、開いた状態で学習できると共に、布を用いた製作では難易度に幅をもたせた実習例が掲載されている。</li> <li>他教科や教科内での関連した学習内容について意識させ、学習を進められるように、Dマークをはじめ様々なマークが使用されている。</li> <li>実習や生活の実践に必要な、確実に身に付けたい基礎的な技能が「いつも確かめよう」にまとめて掲載されている。</li> </ul>
教育図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習の流れが縦で示され、題材が見開き1ページに収められていると共に、布を用いた製作では「私のアレンジ」のコーナーが設けられている。</li> <li>主体的に学習を進められるよう、教科書見開き右上の二次元コードで参考資料が見られるようになっており、家庭分野の学習に関わる複数のマークで他教科や小学校との関連等が示されている。</li> <li>課題解決学習の流れが教科書全体を通して統一されており、小題材ごとに設けられた「学びを生かそう」では、課題設定の手助けとなる「課題設定のヒント」、「私の課題例」が示されている。</li> </ul>
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習のページでは、横の流れで実習のプロセスが示されると共に、食物アレルギー物質について意識できるように、色で部分的に抜き出されている。</li> <li>教科書見開き右下の二次元コードから、学習内容に関するコンテンツを参照できるようになっており、学習をガイドするマークによって、他教科との関連等が示されている。</li> <li>学習した知識・技能を実生活の中で活用できるような総合的な課題として、「生活に生かそう」が設定されている。</li> </ul>
<p>主な審議内容及び検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての出版社で、持続可能な社会につなげるという視点(SDGsの視点)が示されている。</li> <li>調理実習の新しい内容である「蒸す」については、教育図書で確認することができた。</li> <li>調理実習の流れについては、横のレイアウトの方がゆとりがあって見やすいと思う。</li> <li>技術で使用する教科書と出版社が違っても、大きな問題はない。</li> <li>開隆堂には調理法Q&amp;Aが設けられており、参考になると感じた。</li> <li>東京書籍の調理に関しては付け合わせのメニューも1品掲載されており、家庭でも応用することができる。</li> <li>黒板で調理の工程を示すときと同じように、横書きのレイアウトの方が生徒は混乱しないのではないかと思う。一方で、生活の中ではパソコン等で画面を見る際、縦にスクロールして確認していく場面があるので、縦のレイアウトもあながち悪くないのではないかと思う。</li> </ul>	

【保健】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の中で使用されている資料の発行年や著書等を示した「出展一覧」が掲載されている。</li> <li>情報が精選されており、1ページに対する情報量を少なくすることで生徒が学習に取り組みやすい紙面となっている。</li> <li>ユニバーサルデザインフォントが使用されており、見やすくなっている。</li> </ul>
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章や資料に集中しやすくなるよう、本文が左ページ、資料が右ページに分けて示されている。</li> <li>「話し合ってみよう」「活用しよう」「調べてみよう」では、具体的な学習を促す内容が示されている。</li> <li>健康を保持増進する態度を養うために、学習内容と関連の深い「トピックス」が各単元に設定されている。</li> </ul>
大修館書店	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の導入となる「課題をつかむ」の中に、話し合い活動や3択クイズを入れるなど、生徒の学習への関心を高める工夫がされている。</li> <li>学んだ知識が実生活に生きるよう、スポーツ選手や実際の人物を取り上げた「コラム」や「事例」が設定されている。</li> <li>神奈川県内を題材にした写真が多く掲載されている。</li> </ul>
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>章末の「探求しよう！」では、実際に得た知識を使ってより深い学びに結び付けられるように、詳しい資料や探求的な学習活動例が掲載されている。</li> <li>用語の解説やコラムなどが豊富に掲載されており、得られる知識の量が多い紙面構成となっている。</li> <li>章末の「探究しよう！」で、得た知識を今日的な課題や今後の生活に生かせるような課題等が取り上げられている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学研は知識の項目がたくさんあり、教員としては学習を広げることができるため助かるが、生徒の立場から考えると、言葉が並んでいることへの抵抗を感じることもある。東京書籍や大修館はUDとUDフォントが使用されており、色合いも柔らかく文字も少なくなっているので、生徒が好む部分もあり、一長一短であると感じる。</li> <li>資料やグラフが左右に散っていると、生徒にとっては目移りしやすく話を聞けなくなってしまうことが考えられるため、大日本図書のように資料を左右ではっきり分けていた方が取り組みやすいのではないかと考える。</li> <li>感染症については、学習指導要領上「感染症と病原体」「感染症とその予防」という二つの観点がある。学研等は一つにそれをまとめているが、大修館は3つに分けて掲載している。抑えたい内容としては、各出版社とも大きな差異はない。</li> <li>感染症について、大修館ではマスクや感染経路の断ち方等、現在話題となっている内容が掲載されている。</li> <li>性教育について、学研や大修館は学習の導入が行いやすい印象を受けた。</li> <li>大修館は神奈川県の内容を多く取り扱っているため、生徒が身近に感じて取り組みやすいと感じた。</li> <li>東京書籍や学研は教科書らしい印象を受けたが、資料が多く掲載されていたほうがよいと感じた。</li> <li>東京書籍はコラムのようなものが多くあり、使いやすさを感じた。</li> <li>大日本図書については、学習と章のまとめが用語の解説となっている。</li> <li>学研については、解説が細かい印象を受けた。章のまとめに丁寧さが欲しい。</li> </ul>	

【外国語】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元「Unit」に目標が明記され目的をもって4技能5領域を習得できるように構成されている。</li> <li>2年生の教科書からRead &amp; Thinkという読んだものに対して自分の考えや意見を述べる課題があり、深い学びへとつながる構成になっている。</li> <li>1年生のUnit5まで、小学校で習った表現を音声で導入した後、文法事項をキーセンテンスとして取り上げることで、読むこと、書くことへとつながられる配慮がされている。</li> </ul>
開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元「Program」では、二コマ漫画で新出表現を導入することで場面と文法事項を分かりやすく示す工夫がされている。</li> <li>場面に応じて即興でやり取りをするなどの活動が度々設定されており、目的・相手意識を持ったコミュニケーション能力を身に付けられるように構成されている。</li> <li>二コマ漫画での疑問文の導入によって、小学校で学んだ知識を基に場面や状況を読み取ることができ、文法事項の理解と活用法についての分かりやすく示されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年「Lesson」の中の「Get」というページで基本語句・表現の習得、「Use」で活用、「Project」で4技能5領域を総合的に使用するような構成となっている。</li> <li>読む力を高められるように、1年生のLesson4から3年生まで段階的に読む分量を増やしながら読解資料が設定されている。</li> <li>小学校での学習活動を受け、1年生のLesson1から3までは、聞くこと話すことでの活動で導入し、文法事項として扱う基本本文をポイントとして取り出している。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年「Lesson」の中で4技能5領域の言語活動を取り入れ、プロジェクトではそれまでの学習活動を統合し発表する課題が設定されている。</li> <li>話すこと、やり取りの力を見に付ける手立てとして、「Activities Plus」が全学年に設けられている。</li> <li>Lesson1とLesson2では、小学校で学習してきた表現を聞くことや話すことの活動で復習するとともに、文章や表現の幅を広げられるような表現活動が設けられている。</li> </ul>
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Unit」では基礎的な4技能5領域の活動を行う「Part」と技能を横断的に使用する活動が設定されている「Goal」のページがあり、「Goal」では単元目標につながる内容が設定されている。</li> <li>「You can do it」ではグループの協働学習を通じて思考力・判断力・表現力を養えるように構成されている。</li> <li>1年生の「unit1」では「I」を、「unit2」では「you」を主語にすることで、言語材料を絞った言語活動が行われるよう構成されており、小学校からのつながりと文法事項の習得のしやすさを意識した言語材料の配列がされている。</li> </ul>
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Unit」では4技能5領域の5領域がバランスよく習得できるように構成されている。</li> <li>1年生のUnit9から設けられている「Read &amp; Think」で読解力を、2年生以降で設けられている「Express Yourself」で自分の考えを発表する力を高められるように構成されている。</li> <li>1年生全体で扱う言語材料や表現は小学校で学習してきたものが基盤となっており、導入の文は短めで理解しやすく提示されている。</li> </ul>
<p>主な審議内容及び検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>東京書籍は学習内容の増加に対して、ページ数を増やさず判型を大きくすることで対応しているように感じる。</li> <li>教育出版は、教科書巻頭に絵を見ながらクラスルームイングリッシュを学べるページがあり、便利だと感じる。</li> <li>光村図書は、スピーキングについて繰り返し読むことができる構成になっている点に特徴がある。</li> <li>小学校とのつながりを考えた際、小中学校とも同じ出版社の教科書の方が生徒にとってもよいし、教員の指導の面でもよいのではないかと思う。</li> <li>教育出版は、教科書の最後の方に暗記シートがあり、活用することができる。</li> <li>どの教科書も英語の学び方が掲載されているが、生徒が見た時にしっくりくるものがよい。</li> <li>三省堂の導入は生活に密着していてよいと思う。また、他の教科書はストーリーの組み立てとして留学生が日本に来るといいう場面設定になっているが、三省堂は登場人物が他国に留学する場面設定となっている。</li> <li>光村図書のストーリーは同じ人物が登場する点などがよいと思う。</li> <li>三省堂は前置詞のイメージ図があり、工夫されている。</li> <li>啓林館については文法のまとめ方のスタイルが統一されており、全体的に紙面構成が落ち着いているので見やすい。また、テンプレートに言葉をはめていくことで習熟を図っていくような点に特徴があると思う。</li> </ul>	



【道徳】

発行者	調査員報告並びに検討委員調査研究内容概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭のオリエンテーションでは、考え議論する道徳の授業の流れが、漫画を使って提示されたり、「話し合いの手引き」や「司会カード」、実際に議論を体験する教材が用意されたりしている。</li> <li>・巻頭の「道徳の授業はこんな時間に」では、授業の進め方や考え方の道筋が示されている。また、生徒が授業で自分の気持ちや考えを表現しやすいよう、巻末に「心情円」が設けられている。</li> <li>・各学年ともに体験的な学習や役割演技をすることができる「ACTION!」が設定されている。</li> </ul>
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭のオリエンテーションでは、どのようなことに留意して道徳の学習をするのかが、イラストや図を使って提示されている。また、教科書での学びをさらに深め、充実させるために「まなびリンク」が設けられている。</li> <li>・教材の末尾には、物事を自分に引きつけて考えたり、多面的・多角的に考えたりする助けとなる「学びの道しるべ」という発問が設けられている。</li> <li>・学期、1年間の学びのふりかえりのシートが付いている。</li> </ul>
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1教材「道徳の授業を始めよう」では、「他者との対話」や「自分との対話」でどのように学びを深めるかが、イラスト等を使って提示されている。</li> <li>・教材で学んだ道徳的価値を、活動を通して確かめ、さらに深く実感を伴って考えることができるように「深めたいむ」が設定されている。</li> <li>・学期毎に毎時間記録できる「学びの記録」が付録としてついている。</li> </ul>
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの見通しをもたせ、生徒が主体的に学習を進められるように、巻頭のオリエンテーションでは、道徳科で学ぶことや学び方が示されている。</li> <li>・教材で示される内容等をより多面的・多角的に考えることができるよう、関連する教材の全部に「プラットフォーム」が設定されている。</li> <li>・学習シートとして、自身の学びの振り返りができるよう工夫がされた「道徳ノート」が用意されている。</li> </ul>
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的に学びを深められるように「地球と地球の未来のために」、「夢に向かって共に輝く」というテーマでそれぞれ2教材を連続して掲載したユニット学習が設定されている。</li> <li>・教材の内容項目に即した関連情報により、生き方の選択肢が増やせるよう、「クローズアップ」が設定されている。</li> <li>・視点や学習内容の違う関連情報により、生き方の選択肢を増やすためにメンタルトレーニング、アンガーマネジメント、自己肯定感をテーマとした「クローズアップ+」が設定されている。</li> </ul>
廣済堂あかつき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から使われている教材が多く扱われている。</li> <li>・道徳的価値や人間としての生き方について示唆に富んだ格言や名言に触れることで自らの見方・考え方を広げる手掛かりとなるよう、教材の末尾には、先人や現在活躍している著名人の言葉が掲載されている。</li> <li>・教材や内容項目に併せたプラスの資料が別冊としてまとめられている。</li> </ul>
日本教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の順番に縛られることなく、各地域、各学校の特色や方針によって、自由に各教材を生かしてほしいという意図から学習指導要領の内容項目順に教材が配置されている。</li> <li>・巻頭のオリエンテーションではイラストや図を使って、道徳科の学びの流れが提示され、多様な考えを知るための議論の仕方について6つの視点が示されている。</li> <li>・「届けたい言葉」、「込められた想い」、「もっと知りたい」には詩や手紙等で教材の内容をより深め、考えられるものが設定されている。</li> </ul>
主な審議内容及び検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科書に議論の進め方が工夫して示されているが、東京書籍が最も丁寧に記載されている。</li> <li>・道徳に関しては、何を学ぶのかが明確になりすぎていると議論が深まらないこともあるので、生徒にとって明確になりすぎない示し方がされている教科書がよいと思う。教育出版については、テーマがそこまで詳しくは示されていないつもりになっている。</li> <li>・付録は1冊になっていた方がよい。</li> <li>・東京書籍、教育出版、光村図書、学研は、関連する教科が分かりやすいように工夫されている。特に、光村図書は他教科や日常生活との関連が各教材の末尾に掲載されている。</li> <li>・教育出版や日本教科書には、秦野と縁のある二宮尊徳の言葉が掲載されている。</li> <li>・どの出版社も、昔に比べて表紙が可愛らしく、親しみやすいものになっている。</li> <li>・日本文教出版は怒りの感情との上手な付き合い方について記載されており、よいと思う。</li> <li>・学研は比較的最近活躍した著名人が扱われており、生徒にとって親近感がわくつくりとなっているように感じる。</li> </ul>	







































































